

「代替肉・培養肉、SDG s に関するアンケート調査」について

はじめに

公益財団法人伊藤記念財団は、消費者の健康や環境等への関心の高まりを背景に、近年注目されるようになった代替肉（大豆ミートなど植物性代替肉）や各国で研究が進められている培養肉、SDG s に関するアンケート調査を実施いたしました。その結果をホームページに掲載し、食品産業の関係者や消費者の皆さまにご覧いただくことといたしました。ここでは結果の一部をご紹介します。

すでに市販されている大豆ミートなどの植物性の代替肉については、「よく知っている・知っている」の回答は62%を占め、「聞いたことがある」を加えると95%となり、認知度が高いことが伺われます。しかしながら、喫食経験（家庭内、外食を問わず）は48%と半数程度にとどまっていました。また、食べる理由については、「健康に良い/健康に良さそうだから」が最上位でした。今後期待することとして、「味の向上」、「低価格化」が上位を占めました。

一方、研究開発中の培養肉については、「よく知っている・知っている」の合計は16%、「聞いたことがある」を加えても49%と、植物性の代替肉の半分程度の認知度でした。また、「発売されたら食べてみたい」が30%であり、「食べてみたいと思わない」が70%を占めました。その理由は、「人工的な気がするから」、「美味しくなさそうだから」、「安全ではなさそうだから」の順でした。

また、SDG s に関連した食品購入に関する行動・意識調査で、全体の9割近い方々が「エコバックをもって買い物に行く」と回答され、環境を意識した行動がひろがっていることが伺えました。

今回の「代替肉・培養肉、SDG s に関するアンケート調査結果」の詳細をご覧いただき、参考としていただけましたら幸いです。

令和5年6月

公益財団法人伊藤記念財団

理事長 伊藤 功一